

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070305000		
法人名	木曽工業株式会社		
事業所名	グループホームわらい		
所在地 (電話番号)	北九州市戸畑区新川町5-6 (電話) 093-871-2858		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年5月25日	評価確定日	6月28日

### 【情報提供票より】(平成19年3月26日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 8人, 常勤換算	5.4人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート2階造り
	2階建ての2階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(147,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	315円	昼食	525円
	夕食	525円	おやつ	
	または1日当たり 1,365円(おやつ代含む)			

#### (4) 利用者の概要(平成19年3月26日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	10名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.3歳	最低	77歳	最高	98歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧山中央病院・後藤クリニック
---------	----------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR戸畑駅より徒歩にて10分、車にて5分の利便性が高い街なかに位置するグループホームである。「笑顔の絶えない暮らし」を目指して、グループホーム名を「わらい」とし、運営理念を「楽しく、笑顔で、のびのびと」を掲げ、毎日の暮らしの中で笑顔の絶えない暮らしを支えている。入居者は、家庭的な和やかな雰囲気の中で、ゆったりと暮らしている。中庭を挟んで2ユニットが向き合う形で建てられ、園芸を楽しむことができるように工夫している。中庭があることで、空が見え開放感のある空間となっている。提携している病院も近郊にあり、緊急時には病院との連携が取れる体制がある。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けることにより、現状の業務の流れやケアの取り組み状況などが再認識できた。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、サービスの質の向上に取り組むため、取り組み内容や改善課題を話し合う目的で開催しているが、具体的な改善策や意見が出るまでに至っておらず、今後は、地域との多様な関係を築き、グループホームの果たす役割や意義を高めながら、参加メンバーからの率直な意見や改善に向けた取り組みが引き出せるようにしたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月定期的に家族通信にて毎月の行事予定・入居者の様子・ご家族の方への連絡を行っている。半年に一度は、わらい通信にて入居者の暮らしぶり・季節行事やスタッフの紹介などを行っている。また、体調の変化などがあった際には、その都度家族へ連絡を行っている。苦情や意見は、意見箱や運営推進会議の場を活かし吸い上げ、改善に向けて取り組みを行う方向にある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームの道路を挟んで、地域のコミュニティ活動の拠点である市民センターがあり、市民センターとの情報交換・連携を目指して、市民センターの行事や婦人会の行事に積極的に参加している。今後は、グループホームの役割を理解していただき、地域に向けて暮らし続けられることを情報発信していきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「楽しく、笑顔で、のびのびと」を掲げ、運営方針を「一人一人の尊厳を大切に、安心・納得される介護を目指します」、「明るく笑いの絶えない環境づくりを目指します」を立てている。		制度改正により、これまでのグループホームの理念である「家庭的な環境の下で」という表現は、「家庭的な環境と地域住民の交流の下で」に改められ、地域との関係性を重視した内容が求められる。これまでの理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっていることが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に出勤職員で復唱しており、復唱することで、理念が気持ちに入り、毎日のケアのあり方を確認できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のコミュニティ拠点である市民センターが道路を挟んで前に立地しており、市民センターの行事など情報収集を行い、内容によって行事参加を行っている。また、ホームの季節行事への参加を地域の方に呼びかけている。		行事への参加だけでなく、地域へ溶け込むために地域の一員として地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいくことが求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初回の外部評価である。自己評価により、業務の推進状況やケアの取り組みを振り返ることができ、改善に向けての問題点・課題を再認識できた。外部評価の結果を受けて改善点を洗い出し取り組む方向にある。		外部評価の結果をミーティングで報告し、改善に向けての具体案の検討や実践につなげるための努力をお願いしたい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの質の向上に取り組むため、取り組む内容や改善課題を話し合う目的で開催しているが、具体的な改善策や意見が出るまでに至っておらず、参加メンバーから率直な意見や改善に向けた取り組みが引き出せるようにしたいと考えている。		運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であり、外部評価の結果の公表をふまえ、評価後の改善への取り組みを運営推進会議でモニターしてもらうなど、運営推進会議を活かす取り組みが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市の介護サービス相談員派遣事業に申し込み、入居者の話を聞いていただける機会を作っている。市の担当者との情報交換など関係づくりは、今後、取り組んでいく方向にある。		市の担当窓口の情報交換を積極的に働きかけ、関係づくりを行い、地域密着型サービスの問題点・課題の共有化を図り、考え方や実態を共有していくことが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者に権利擁護の利用が必要な方がおられ、アドバイスを行いながら、入居者の支援を行っている。また、月1回の勉強会では、権利擁護に関する制度の理解を高めるための話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に家族通信にて毎月の行事予定・入居者の様子・ご家族への連絡を行っている。半年に一度は、わらい通信にて入居者の暮らしぶり・季節行事やスタッフの紹介などを行っている。また、面会時にも個々に合わせて報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見は、意見箱の設置及び面会時に家族から直接意見を聞くことにより対応している。また、運営推進会議の場を活かし吸い上げ、改善に向けて取り組みを行う方向にある。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の居室の整理など、職員の担当制で行っているが、入居者全員の状態を職員が把握し、どんな時でも、職員がケアに当たることができるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は特になく、採用に当たっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、職員が働きやすいようにコミュニケーションの機会を多く取るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	月1度の勉強会及びミーティングで人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		今後、人権を尊重するために、外部の研修参加など取り組むようにしている。今後は外部研修の参加により、充実した人材教育に努めるようにしている。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	ホーム内の勉強会や外部研修に参加している。		職員の能力向上のために、研修は交代で受講できるようにしていく方向にある。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	3つのグループホームとネットワークを形成し情報交換を行い、サービスの質の向上を図る取り組みを行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	面接時に状態を把握し、入居の際には、1日か2日の体験入居をしていただき、入居が可能かどうかをご本人が納得するまで話し合っており、入居など時期を決めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	暮らしの中で、配膳・盛りつけなど入居者ができることは行っていただき、食事や掃除の時間には会話を大切に、家族として暮らす関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握	入浴のゆっくりした時間や夜中など眠れない時など、入居者の状態が良い時に希望・意向を把握・確認している。		入居者の思いや意向をさらにアセスメントで掘り下げ、引き出していくことが望まれる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者のこれまでの暮らしをセンター方式のアセスメントツールを使い把握している。医療情報や身体状況の情報が少なく、介護計画に組み入れることが求められる。		センター方式のアセスメントは入居者との会話など、細かく記録を行っているが、その分析を介護計画へ反映することが求められる。また介護計画は、医療情報や身体状況の情報が少ない為、今後はそれらの情報を加味した上での介護計画が求められる。アクティビティの個別性も検討が必要である。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画は、3ヶ月ごとにサービス担当者会議を行い、見直しを行っており、状態変化に応じて、その都度見直しを図っている。見直した際には、家族の了解を得ている。		今後は、一人ひとりの生育歴や生活歴の中から、その人らしい暮らしを考えた介護計画が作成されることが望まれる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	ヘルパーステーション併設のため、家族対応の受診ができない家族は、ヘルパーにてサポートを行っている。家族の身内の介護の相談などを受け対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援	協力病院により、毎週1回訪問診療を行っているが、かかりつけ医を希望する入居者には、かかりつけ医の診療をサポートしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りの同意書を作成している。看護師が常勤しており、協力病院の看護師とも常に相談できる体制を築いている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者の性格などを考慮した言葉かけで対応している。入居者の方々が、なごやかな雰囲気でご過ごせるように支援している。また、プライバシー保護のため、個人情報保護書類を作成している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の状態に応じて支援しているが、日常的な買い物など、希望にそって支援することが求められる。		街なかに立地する利便性を活かし、日常的な買い物など外出の機会を検討され支援することが求められる。
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の食べたい物を聞き、メニューに採り入れている。また、食事は料理の下準備や盛りつけなど入居者ができることを行っていただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	2ユニットで入浴は交互に設定されており、希望に応じて入浴できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の希望や家族からの情報をもとに、編み物や園芸・囲碁・裁縫が好きな方など個別に支援している。また、月2回、絵手紙教室を開催し、楽しみごとを支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	季節の行事を楽しむために祭りや敬老会など外出しているが、日常的な買い物は入居者の希望を聞き、職員が買い物に行っている。日常的な買い物支援により、外出の機会を増やすことが求められる。		季節の行事参加の外出ではなく、日常的な買い物や3時のおやつのお食など検討していただきたい。
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員の見守りや職員間の声かけにより、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	来月中旬に消防訓練を実施する予定である。今後、地域の方々への消防訓練への協力・参加をお願いする予定である。		今後、地域の方々への消防訓練への協力・参加を求めていく予定がある。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	管理栄養士による献立を作成し、栄養バランスや摂取カロリーを把握している。水分摂取量は朝・昼・夕の食事の際、午前・午後のティータイム、入浴の前後、夜間に居室に飲み物を置くなど対応している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	2ユニットの共用空間からは、空が見える緑豊かな中庭があり、開放感あふれる伸びやかな空間となっている。また、日頃、使用する物品は、入居者の目線に配慮し、カーテンを使用し目隠しをするなど、家庭的な環境を大切に空間づくりを行っている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者が使い慣れた物を持ち込んでいただくように支援しており、入居者の好みに応じて入り口に暖簾が付けられ、居心地の良い居室づくりを支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			